Moral Foundations Dictionary 日本語版の作成

○松尾朗子¹・笹原和俊^{2,4} (非会員)・田口 靖啓³ (非会員)・唐沢 穰²

(¹名古屋大学環境学研究所・²名古屋大学情報学研究所・³愛知大学文学部・⁴JST さきがけ)

キーワード: 道徳, 文化, 言語

The Development of Japanese version of Moral Foundation Dictionary

Akiko MATSUO¹, Kazutoshi SASAHARA^{2,4}, Yasuhiro TAGUCHI^{3,#}, and Minoru KARASAWA²

(¹Grad. School of Environmental Studies, Nagoya Univ., ²Grad. School of Informatics, Nagoya Univ., ³Aichi Univ., ⁴JST PRESTO)

Key Words: Morality, Culture, Language

目 的

道徳判断, つまり, それが正しいまたは間違っているとする判断の基準について, Haidt (2007) は「集団としての生存」という進化的観点を変えて考察し, 5つの普遍的な道徳基盤を提唱した(擁護, 公正, 内集団, 権威, 純潔)。これら5つの道徳基盤は通文化的であり, 幅広い文化において人間は, 道徳判断の際に上記の5つの観点を, いわば道徳判断のテンプレートとして適用し, 最終的にはそのどれかに基づいて「善い・悪い」の結論を導くと考えられている。しかし, 人間は道徳判断の根拠について理論的定義から学ぶわけではなく, 経験的に, 他の成員たちがどのような場面でどのように判断するのかを頼りに理解する。

先行研究から得られた理論的な枠組みを確認するためには, ある文化に生きる人々が, 現実世界において, 言葉を通じてどのように道徳に関する表象を共有しているのかという観点から観察データを検討することが必要となってくる。そこで本研究では, 特に計算社会科学的アプローチの際に有用であるMoral Foundations Dictionary (MFD) の日本語版の作成を試みた(Graham et al., 2009)。

方 法

日本語翻訳の手続き オンライン英語辞書サイト OneLook を利用して, MFD の語幹表記語(i.e., safe*)の候補を網羅的に取得し, MFD の単語一覧を作成して, その後, 明らかに道徳と無関係な語を削除した。次に, これらの語をオンライン日本語辞書サイト Weblio を使って, 翻訳の候補となる語を列挙した。そして, 筑波コーパスと現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)の頻度情報に基づき, 使用頻度の高い語のみを残した。その後, 再度, 明らかに道徳と無関係な語を削除し, MFD 日本語翻訳版を完成させた(Table 1)。

データ分析の手続き 2016年3月から8月まで, 「非道徳」や「不道徳」等を含む Twitter の投稿データ (ツイート) を収集し, 約 34 万個が得られた。ツイートに含まれるテキストを形態素解析し, 単語に分割して, MFD 日本語版 (各道徳基盤の違反カテゴリのみ使用) に含まれる語の頻度を調査した。

結 果 と 考 察

ツイートに含まれていた各基盤の違反単語の数についてカイ二乗検定を行った結果, 単語数の偏りは有意であった ($\chi^2(4) = 23348.22, p < .01$)。多重比較の結果から, 5群のうちどの2群の比較においても有意差が認められた(Table 2)。

Table 1 MFD 日本語翻訳版の各基盤に含まれる単語の例

擁護 (美德)	擁護 (違反)	公正 (美德)	公正 (違反)	内集団 (美德)	内集団 (違反)	権威 (美德)	権威 (違反)	純潔 (美德)	純潔 (違反)	道徳一般
守る	損害	公平	不当	集団	背信	服従	反抗	きれい	墮落	道義
保護	傷つける	公正	不正	共同体	裏切る	尊敬	異議	清純	汚す	価値
無事	破壊	正当	差別	愛国	利己主義	地位	暴徒	節制	不快	教訓

Table 2 ツイートに含まれていた各基盤の違反単語の数

擁護(違反)	公正(違反)	内集団(違反)	権威(違反)	純潔(違反)
6158	1714	1438	10107	17082

ツイート数の分布をみると, 特に純潔基盤と権威基盤の違反単語が多いことがわかる。これは, 同じ文化に生きる人々が, 道徳違反について多くの場合, 純潔, 権威基盤に関する言葉を使いながらコミュニケーションをとっていることを示す。言い換えれば, 日本人は道徳違反に関する表象を, 特に純潔, 権威基盤を用いて共有しているのである。これは, 重要視している道徳基盤に関する個人的特性を測定する質問紙を用いてアジア人を対象に行われた研究の結果とも整合する (Graham et al., 2011)。

応用可能性と今後の展望

本研究は, 道徳心理学における重要なツールを提供するという点で意義深いものである。この MFD 日本語版とオリジナルの MFD を使用して, 日本語のツイートと英語のツイートにおける各道徳基盤に関連する単語を抽出し比較することが可能になる。また, 日本語ツイートにおける各基盤同士の関係の検討も示唆に富んだ知見となろう(英語ツイートにおける各基盤同士の関係については Kaur & Sasahara, 2016 を参照)。

心理学の分野で得られた理論的枠組みの例証のために計算社会学の分野に貢献するという点で, 学際的なツールとも言える MFD 日本語版であるが, 今後は内容の修正と異なるバージョンの作成も必要である。たとえば, Kaur & Sasahara (2016)が MFD オリジナルを拡張させたように, MFD 日本語版に類義語を追加することも1つの可能性である。さらに, 西洋と非西洋での各道徳基盤に関する独特な意味の違いを反映させたバージョンも作成し, 研究目的によって使い分けることで, 道徳判断に関する心理プロセスの理解が深まることが期待される。

引用文献

- Graham, J., Haidt, J., & Nosek, B. A. (2009). Liberals and conservatives rely on different sets of moral foundations. *J of Personality and Social Psych.*, 96, 1029-1046.
- Graham, J., Nosek, B. A., Haidt, J., Iyer, R., Koleva, S., & Ditto, P. H. (2011). Mapping the moral domain. *Journal of personality and social psychology*, 101(2), 366-385.
- Kaur, R., & Sasahara, K. (2016). Quantifying moral foundations from various topics on Twitter conversations. *Proceeding of the 2016 IEEE Big Data*, 2505-2512.

本研究は科学研究費(基盤研究(B) 15H03446)およびJST さきがけ(JPMJPRI6D6)による助成を受けた。